

活動報告

団体名	兵庫県立大学減災復興政策研究科災害支援チーム
活動名	坂町の住民自治促進によるコミュニティ形成と内発的復興の取組推進活動
活動期間	2019/04/01～2019/09/30
活動の成果	<p>仮設住宅や町有住宅（みなし仮設住宅）の集会所でのサロン「わいわい喫茶」を引き続き月に1度のペースで実施してきた。住民主体のイベントを数回実施できたことは、住民同士の会話がさらに生まれ、支援者の役割が自ずと減っていく機会になった。支援者としての役割が減っていくにしたがって、住民主体の動きが少しずつではあるが活発化してきている。また、地元の学生と被災した住民をつなげるサポート活動に努めた結果、地元の学生ボランティア団体による息の長い支援が被災地で定着化してきつつある。継続的に活動をしてきたなかで、私たちの企画するイベントに来ていないみなし仮設住宅や公営住宅などに入居する住民の方を見つけるきっかけにもなった。そうした住民にも誰かに聞いてもらいたい話があり、決して支援が不必要だったわけではない。戸別訪問では、そのような住民の漠然とした不安や悩みを拾い、坂町地域支え合いセンターに情報を共有することで適切な支援へつなげる活動に努めてきた。被災した住民はまだまだ心のケアや個別ニーズ、コミュニティの問題など多くの悩みや不安を抱えており、「わいわい喫茶」や「交流会」を通して私たちは被災者一人ひとりに寄り添ってきた。こうした取り組みが現地ではまだまだ求められているように感じた。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>寄付者の皆様のたくさんの温かいご支援、ご協力により半年に及び活動をこうして継続し、無事に終わることができました。今年度も災害により各地で広域、且つ甚大な被害が発生しています。さらに、支援者の分断や慢性的なボランティアの不足によってなかなか復旧・復興が進まない状況であると伺っています。もちろん、そうした被災地での支援活動は大事ですが、こうした1年前の被災地にもまだまだ私たち支援者が関わり続ける意味があると感じています。地域で元々あったコミュニティが災害をきっかけに分断し、さらに仮設住宅やみなし仮設住宅で新たにできたコミュニティが災害復興住宅の建設から入居に伴って再び分断されようとしています。私たちの活動が一人でも多くの被災した住民の方のお力になることができれば幸いです。私たちの活動継続に当たり、ご協力いただきました寄付者の皆様にこの場を借りて御礼を申し上げます。貴重な寄附を頂いた皆様、今後も精一杯の活動に取り組んでまいりますので、引き続き温かいご支援、ご協力のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。</p>

(活動のようす)

